

宇野千代顕彰会

# もみじ茶会を題材に

## 短歌・俳句の入選者を表彰



昨年秋、岩国市川西2丁目の宇野千代生家で「もみじ茶会」を開いた「宇野千代顕彰会(島津教恵会長)は茶会を題材にした短歌、俳句作品を公募し、応募のあった短歌19首、俳句66句の中から優秀賞入選を選出して11日、麻里布町のフジグラン岩国4階の「いわくに市民活動支援センター」で表彰式を行った。

短歌は蜀紅短歌会会長の二宮信子さん、俳句は岩国俳句協会長でもある島津会長が選者となり、作者名を伏せたまま審査した。

……

表彰式を終えた優秀賞者と入選者、選者の島津会長、二宮さん(前列中央)

短歌の部で優秀賞となったのは小坂真由美さん。「百年の時を経てなお燃えさかる宇野先生ともみじの木々と」の作品に、二宮さんは「時の流れと宇野千代の世界観を感じさせる大きな一首」と評価した。

入選は小原静子さん「小春日の縁に『おはん』を読み終えて娘(こ)と歩みたる苔庭想う」、相川美津江さん「自慢げに紅葉のいわれガイドするしっとり雨の宇野千代生家」、轉廣子さん「もみじ葉の木漏れ日の中 一瞬につがいの小鳥水飲みに来る」、正木紀子さん「雲ひとつなき蒼天へ透かしてみる紅葉の彩は神の采配」、島津教恵さん「紅葉佳し琴の

音も佳し日和佳し紅葉茶会に笑顔集へり」だった。

俳句の部で優秀賞となったのはふじいあつしさん。「もみじ葉の木漏れ陽ゆる千代茶会」の作品に、島津さんは「もみじ葉越しの光、木漏れ陽、それがゆれて明るさが広がっている状況が目に見えようです」と評した。

入選は金光清美さん「宇野亭の紅葉燃え立つ茶会かな」、友田美美さん「石仏の空薄紅紅葉濃紅葉」、正木紀子さん「苔庭に紅葉の斑千代旧居」、轉廣子さん「琴の音にライトアップにもみじゆれ」、赤川和子さん「筆の音にもみじ茶会は華やいで」。

特別賞は、おさかゆうまさ

さん「お言葉ときれいなもみじいやされる」。

宇野千代生誕125年記念となる、もみじ茶会は昨年11月19日、3年ぶりに開かれ、武者小路千家山口官休会岩国支部(松田清乃支部長)が茶の接待を担当した。

島津会長は「もっと賑やかにすることはできないかなと小箱を設けて短歌、俳句の募集を初めて行った。多くの作品をいただき、迷うほどだった。きょうは互いに喜びたい」と応募の作者を称えた。

二宮さんは「難しい題材に挑戦していただいた。それぞれ違った場面をとらえ、回想に成功していた」と話していた。